

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1196200057		
法人名	株式会社 寿エンタープライズ		
事業所名	グループホーム鶴ヶ島		
所在地	埼玉県鶴ヶ島市上広谷652-2		
自己評価作成日	令和 5年 2月10日	評価結果市町村受理日	令和 5年 4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 5年 3月 17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・「なんでも一緒に」を基本姿勢として、日々の業務の中で入居者・職員共に「ありがとう」と言い合える関係作りに努めている。また、なんでも一緒に行くことにより入居者の細かい状態や思いを再確認し、入居者が我が家で生活している事と変わらない状況に近づけるサービスの実現に努めている。  
 ・看取りを通して最後まで入居者の尊厳を保持し、ご家族とも早期から話し合いの場を設け、入居者及び家族の意向を基に関係各所と連携を取りながら取り組みを行っております。最後の時まで、その人らしい生活が送れるように援助しています。  
 ・職員の定着力が高く、永年養い続けてきたノウハウを生かし、入居者個々に合わせたケアの実践に取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は、着任時より終末期ケアに注力しており、徐々にその効果が職員間にも浸透してきている。利用者の介護度も比較的に高めてはいるが、何事でも出来ることはゆっくりでもやってもらい、ダメならばフォローをするという姿勢も徹底しており、同じ思いからか職員の離職率も低い現状がある。毎年度初めに、担当者を決めての研修計画を作っており、権利擁護やプライバシー確保、不適切ケア他の勉強会の場を作っている。事例をあげての研修の機会は、職員が互いに考え、相談し合う場として有効でもある。また、事業所内での各種部会を構成しており、防災委員が定期的にコンセント周りの埃や塵の除去に努めているのは、職員全体への意識を高めることにも通じている。同地区の地域密着型施設間での話し合いも、情報交換の良い機会となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく生き生きと笑顔で生活」の理念を掲げ、朝礼時に唱和し、現状の再確認と見直しを図って実践に繋げている。	事業所理念の他に、法人グループ間での年度目標を挙げている。自分らしさを汲み取り、趣味のピアノ演奏の継続や、飲物でも好みを聞くことでの再確認を通して、利用者本位の笑顔の生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	上広谷自治会に属し、地域の行事に参加していたが、コロナ禍のため、活動休止となっている。施設前マンションの交通安全の為、施設敷地内にカーブミラーの設置等の要請を受け、設置したこともある。	自治会に加入しており、回覧板は次の家へは手渡しで回すようにしている。民生委員から地域の相談事を聞くことや、隣の畑を借りている近隣住民から、「皆さん元気ですか」等の声掛けがある。	近隣地域の方との交流を増やしたい希望がある。移動スーパーの導入が叶えば、地域住民の方々にも利用してもらい、開放されたホームづくりを目指されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、本年度の活動は休止しているが、問い合わせがあった場合は相談にのり、アドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、家族等の参加は中止しており、事業所内開催とし、議事録等については市役所や地域包括支援センター、民生委員に報告している。		コロナ収束後は、運営推進会議への参加者を増やしたい。家族の他、同業事業者や病院の相談員などにも声掛けし、地域での認知度を高めたい願いを実現に向けてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所高齢介護課、生活保護ケースワーカーとの連絡を頻回に取っている。	毎月5日までに空室状況報告を行い、事故報告等の行政報告は都度に窓口へ出向いている。地域密着型施設のグループ会議に参加したり、市役所ロビーで行われた作品展に利用者作品を出展している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍の為、外部研修等への参加は出来ていないが、YouTube配信での研修やリモート研修に参加して、虐待や身体拘束の無いケアの実践を行っている。	3カ月毎に虐待防止を含め適正化委員会を実施している。年度初めに研修計画を立て、担当を決めての勉強会がある。ベッドの四点柵について話し合い、利用者本位で考えての工夫点として、居室にテレビを置くことで、ベッドから降りることが無くなった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同カンファの際や、フロアカンファの際に資料等に基づいた拘束の無いケアの確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人についている入居者がおり、どのような関わりで入居者を支える事が重要なのか相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い、納得した上で入居して頂くように努めている。退去要件や医療的ケアが必要になった場合どのような対応が必要になるか等入居時に伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ前は家族会等で直接意見を頂く機会もあったが、現在は電話連絡、リモート、手紙等で意見や要望を伺っている。	恒例の家族会は中止としており、ワクチン接種時の家族連絡等で意見交換をしている。居室担当者からの一筆箋や写真を見ての交流もある。面会の時間や場所についての意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやケアカンファ、日常業務中の意見や提案を業務に反映し実現に努めている。職員の意見について、まずは行ってみることを大切に考えている。年2回は個別面談を通して個々の意見を聞き、反映出来るように図っている。	月1回の合同会議やフロア会議で意見を聞く他、個別面談でも意見交換がある。移動スーパーの導入提案や、身体を動かすための体操の内容を変更し、音楽体操に切り替える提案を受け実践した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や成果を年3回の考課表にて状況把握に努め、評価を行っている。介護福祉士の資格取得や初任者研修終了などによる資格手当制度があり、職員のモチベーションに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修への参加を促し、研修資料等は誰もが閲覧出来るようにしている。中途入社した職員に関しては法人のリモート研修で研鑽を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鶴ヶ島市のGH部会等で空室状況、問題点を話す機会を持ち、今まで構築しているネットワークを活用し、得た情報をホームでの活動へ転化し資質を落とさないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を希望される本人に、出来るだけ入居前に見学に来てもらうようにしている。その際に不安や要望、希望について聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を希望される方のご家族には必ず入居前に見学に来てもらっている。その際に困りごとや、要望の聞き取りを行っている。家族の意向を職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が、今何を求めているかの聞き取りを行い、ホームで生活をして頂き、随時評価を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや食器洗い、掃除等、入居者が活躍する場面を作り、職員から「ありがとう」と言える関係を作るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、面会の制限を行っているが、玄関先での情報交換や、電話や手紙で本人の状態を伝えている。制限化の中で出来る事をご家族と相談し、本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話でのやり取りを支援して、会うことが出来ない状況下での関係を繋ぐ支援をしている。	家族以外の来訪は殆どないが、友人との電話連絡等は仲介している。入居前のフォークダンス・サークルの方が来訪し、踊りの動画を持参され楽しんだことがある。お墓参りもコロナ後は行けていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中(食事、レクリエーション、イベント、おやつレク)等での関わり合いを大切にし、お互いが支え合える関係作り、一つの大きな家族の様に考え対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してしまった場合でも、可能な限りフォローを行っている。看取り後、一周忌には職員からのメッセージを添えて献花しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方について普段の日常会話等で確認が取れるよう努めている。困難な場合は個人ケースファイル等を定期的に見返し、本人の意向を把握するように努力している。	傾聴に心がけているが、周りに人がいると言えない人もいる。入浴時や居室で2人の時に思いを話す利用者もある。言葉にできないが、こちらの言うことは分かる人へは、朝の洋服等は選んでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、定期的な面会時の家族からの情報の他に、日常会話や写真等から馴染みのある暮らし方、生活環境を紐解いていくことに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの介護計画書、1日2回のバイタル測定、経過観察記録、処方箋を確認すると共に日常生活動作等、身体の様子をこまめに観察し、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の要望と共に居室担当職員からのアセスメントを中心に月一回のカンファレンスにて意見や提案を出し、より良い介護計画が作成出来るように努めている。	6カ月毎の見直しを基本とし、更新月の前カンファレンスで意見を出している。居室担当者他のモニタリングを参照し、計画作成者が仮プランを作り、家族意見や関係者のアドバイスをを入れて本プランとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の些細な変化を見逃すことなく職員同士が意見を出しやすい環境作りをしながら情報共有し、個別記録に記入したものを実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員ひとり一人の経験を活かして柔軟な支援や工夫した新しい取り組みに挑戦している。また、職員間で話し合いが常に出来、上司に相談できる人間関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとり一人の暮らしを支えている地域資源(地域包括支援センター等)を職員全員が把握出来るように介護支援専門員を中心に掲示物を作成する等努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を中心に、急変時の希望医療機関等も把握した上で適切な医療を受けられるよう支援している。必要時は家族や本人と相談し、総合病院の受診も行っている。	往診医は月2回の来訪で、訪問看護師とマッサージ師、歯科医は週1回の訪問がある。夜間も主治医との連携が出来ている。急変で病院搬送時は、主治医から病院へ診療情報提供がありFax送信されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護では、1週間の特変や経過観察を細かく伝え、医療的処置を受けている。看護師から医師への意見や提案も伝達し、適切な医療診察を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には介護・看護サマリーの提供等で情報交換している。入院途中で面会可能な場合、ご家族と共に面会に赴き、病院関係者とも関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の身体の変化の中で、終末期に入ったであろうと気付いた時には早い段階で施設側と家族とで話し合いの場を持つよう努めている。ご本人・家族の意向を大切に地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化指針の説明をし、家族の意向を聞いている。変化があれば、主治医より家族への説明があり、管理者も立会いのうえ生活の場を相談している。今年度は2名の看取りがあり、予想される変化等を話し合い、対応を共有した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて「救急対応訓練」の実施を定期的に行い、実践力が身に付くよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに沿って定期的な訓練を行い、実践力が身に付くよう努めている。月一回のコンセント付近のホコリ取り点検を行っている。	年2回の訓練では、夜間を想定しての訓練も実施している。ホーム内防災委員は、コンセント周りのホコリ点検をしている。避難訓練時には備蓄品の確認を行い、4種類の備蓄米100食分の確保がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時々状況に合わせてひとり一人の気持ちや考えを考慮し、安心する言葉掛けをしている。	権利擁護やプライバシー確保を年間研修に入れ、合同会議の場で勉強会を実施している。各職員の意識が大切とし、人生の先輩としての対応を求め「さん」付け呼称として、休憩室には、その旨の掲示もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今、何をしたいのか、何を思っているのか利用者の希望を聞き、希望に合わない場合、しっかり説明をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースで声掛けをしまわぬように、一人ひとりの生活ペースを大切にしよう心掛けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後、朝の整容等、職員と会話をしながら鏡の前で整容を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度はミニ行事として好きなおやつを伺い、希望者には提供している。行事ではイベントに合う食事を用意している。	職員が作る味噌汁は具沢山で好評である。おやつレクでは、利用者が小麦粉を練ってくれ、賑やかで楽しみの時間である。イベント時には、食べたいものを聞き、お寿司やラーメン等が喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分は日々記録を残して各利用者の摂取量を全職員が把握出来るようにして無理強いせず、摂取量が足りてない時は声掛けにて摂取出来るように促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・介助を行っている。拒否が見られる時は少し時間をずらして対応している。各入居者に合った口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、表情・行動から読み取って介助を支援している。尿意・便意の伝達が困難な方は時間での誘導を行っている。	排泄チェック表で個々のパターンを掴み、失禁の無いよう声掛けを心がけている。日中のオムツ使用者はなく、夜間オムツ利用の方も、起床後はリハビリパンツに切り替え、排泄時は二人介助でトイレ誘導の方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す為に、野菜ジュースの提供、腹部マッサージ等を行い、排便を促している。場合によっては下剤を内服して頂いて排便のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の羞恥心に配慮し、希望に応じて同性または異性介助を行っている。浴槽に入れる方、困難な方についてはそれぞれに対応した支援を行っている。	3日に1回の午前浴とし、希望を受けて脱衣所での手浴や足浴をおこなっている。また、浴槽へ入れない方へは、シャワーキャリーでシャワー浴を実施している。今日は「草津の湯です」と、入浴剤利用もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車イス利用者が座位時間が長くなり、負担が掛からないように横になって休息が出来るようにしている。レク活動で適度な運動を行い、安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと、変更されたお薬は直ぐに確認して職員間で共有しています。また、体調の変化についても注意深く観察して体調管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握して得意な生活活動をして頂いています。活動を通して生きがいを感じ、誇りを持って生活して頂くように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍で面会制限、外出自粛がある為、リモート面会、窓越し面会を実施しています。離れていても顔を覗いて会話出来る機会を設けています。感染収束の際は花見や散歩の機会を設け出掛けることが出来るように支援します。	2月末から近隣散歩を始め、ユニット毎に2～3名をお連れしている。利用者の声で、外へ行きたい、珈琲を飲みに行きたいの声を聞いており、コロナ収束が待たれる。家族との面会は、リモート面会としてタブレットにSNS経由で表情を見て貰っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍のため、現在外出の機会はないが、必要な物が出た時には家族に電話したり、施設で立替して代行で購入し、日常生活に困ることが無いよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や、リモート面会を活用してご家族にお顔を観て頂いたり生活状況を職員が伝えるなど工夫をし支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースでは入居者同士のコミュニケーションが取れるように一緒にレク活動を行い、雑談をしたり、ティータイムを設け、落ち着いた環境作りをしています。	毎日2回の手摺やテーブルの消毒を行っており、床のクロスカーペットも汚れに対しては早期に取り替えている。部会活動で出展した作品を飾り、季節感のある利用者作品がある。共用部には、リクライニングソファを置き、傾眠の方を誘導している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり一人の思いを尊重し各々に合わせた過ごし方を見つけて援助しています。レク活動では得意なことが発揮出来るように支援しています。休息が必要な方は淋しくならぬようにフロアのソファで場所を区切り安心して過ごして頂けるように努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた室温調整・居室内の換気を行っています。居室内の衣類や洗面用具等、日常使用している物が分からなくならないように整理整頓し安心して過ごして頂けるよう心掛けています。	ベッドは持ち込みかレンタル品で、備品としては、クローゼット、洗面台、エアコンがある。家にあったテーブルや椅子を持参され、家族にとっても安心して繋がっている。朝夕に仏壇へ手を合わせる方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今いる場所が何処なのか分からない方にはその都度傾聴し説明を行っています。トイレやお部屋が分からない方には目印として貼り紙をする等して工夫しています。		